

第4章

カンボジア 米と魚の自給自足的経済

天川 直子

要約：カンボジア経済は1970年代以降、閉鎖され孤立してきた。1990年代に入り対外開放が進み、縫製業に牽引された輸出の拡大で工業部門が成長した。しかし現在でも農林水産業は国内総生産の約3分の1を占め、米と魚を中心とした自給自足的な構造は変わっていない。

キーワード：カンボジア グローバリゼーション 農業 統計

はじめに

カンボジア経済ほど、国際政治情勢にその発展が左右された経済は他に類を見ないだろう。1970年のいわゆる「ロン・ノル・クーデタ」以後、内戦とポル・ポト時代を経た結果、1979年に人民革命党政権が成立した時にはカンボジア経済は壊滅状態にあった。この時は、東西を問わず国際社会全体から多額の緊急援助を得たおかげで、大規模な飢餓の発生は食い止められた。

しかし、1980年にベトナム軍がタイ領を越境攻撃したのを境に、当時の東南アジア諸国連合（ASEAN）が、人民革命党政権の既成事実化を阻止し、カンボジアの反越勢力を強化する立場を鮮明にした。さらに1982年にASEANの外交工作により反越3派が民主カンブチア連合政府を樹立したのを境に、西側諸国による対カンボジア援助は激減した。国連でも、カンボジア国内に実効支配域を持たないにもかかわらず、民主カンブチア連合政府がカンボジアの代表として承認された。そのため、1980年代、人民革命党政権下のカンボジアは国連諸機関による開発援助を受けることもできなかった。

こうした国際的孤立状態は1991年の「カンボジア紛争の包括的政治的解決に関する協

定」締結、1992年のカンボジア復興閣僚会議（ICORC）の開催、そして1993年の新政権樹立によって解消した。さらに1999年にはASEAN加盟が実現し、2004年には世界貿易機構への加盟が発効し、カンボジアも国際的な経済自由化の流れに全面的にさらされることになった。

本稿は、カンボジア経済が孤立した閉鎖的状态から一転して世界的な経済自由化に直面したことが、同国の農林水産業にいかなる影響を与えているのかについて、統計的概観をおこなうものである。

1. 国民経済における農林水産業

1990年代から2000年代初めにかけてのカンボジア経済は、主にふたつの要因に大きく支えられて拡大した。ひとつは諸外国・機関による開発援助である。国際社会への復帰以来、カンボジアには名目GDPの約13%相当（1993～2003年平均）の多額の援助が続けられてきた。もうひとつは縫製業の拡大である。1996年に米国でカンボジアへの最恵国待遇供与法が施行された前後から、台湾、中国、香港の縫製業者が米国市場を狙ってカンボジアに流入した。以後、縫製業はカンボジアの主たる輸出産業としてGDP成長を強力に牽引している。

表1はこの間の実質GDP構成比を示したものである。1990年代初頭と近年を比較すると、その間の最も大きな変化として、「農林水産業」が10%以上縮小した一方で「工業」が2倍以上に拡大したことを指摘できる。しかし縮小したとはいえ、「農林水産業」はなおGDPの35%近くを産出する主要産業である。特に耕種部門と漁業でGDPの4分の1以上が産出されている点を強調しておきたい。また、カンボジアでは農産物を原料とする製造業がGDPに占める割合は非常に小さい点も指摘しておきたい。

表1 産業別 GDP 構成比 (2000 年価格)

単位：%

	農林水産業					工業			サービス業
	耕種	家畜 家禽	漁業	林業		食品・飲料 タバコ	ゴム		
1993 _r	45.4	18.9	8.5	13.5	4.5	12.8	4.0	0.3	38.8
1994 _r	46.3	17.8	7.6	12.9	8.1	13.8	3.6	0.2	34.9
1995 _r	44.8	18.6	7.7	13.0	5.5	15.9	3.9	0.2	35.4
1996 _r	43.1	18.2	7.4	13.0	4.4	15.9	3.7	0.3	36.4
1997 _r	42.9	16.8	6.9	12.8	6.3	17.8	3.6	0.3	35.2
1998 _r	43.7	17.6	7.1	12.9	6.2	16.7	3.8	0.5	35.6
1999 _r	40.7	18.2	6.3	11.4	4.8	17.9	3.5	0.5	35.9
2000 _r	37.5	17.5	5.3	11.3	3.4	21.9	3.1	0.5	35.4
2001 _r	36.3	16.7	5.6	11.4	2.6	23.6	3.1	0.5	35.0
2002 _p	33.4	14.9	5.3	10.9	2.2	26.3	2.9	0.4	34.6
2003 _p	34.7	17.4	5.3	10.1	1.9	26.6	2.8	0.4	33.5

(注) r: revised estimates p: preliminary estimates

(出所) National Institute of Statistics (NIS) [2003] *Statistical Year Book 2003*, p.441, および
http://www.nis.gov.kh/PERIODIC/NA/Table.htm より筆者作成。

表2には農林水産業の粗付加価値の内訳を示した。特筆すべきは、米作が農林水産業全体の粗付加価値の約4分の1、耕種による粗付加価値の過半を生み出していることである。換言すればカンボジアの農業には米以外の農産物に見るべきものはない、ということでもある。

表2 農林水産業部門の粗付加価値の内訳 (2000 年価格)

単位：%

	1993 _r	1994 _r	1995 _r	1996 _r	1997 _r	1998 _r	1999 _r	2000 _r	2001 _r	2002 _p
農産物	41.7	38.5	41.4	42.3	39.2	40.2	44.7	46.8	46.0	44.6
米	23.7	21.8	25.1	24.9	23.1	22.4	25.0	25.3	25.2	24.1
トウモロコシ	0.6	0.5	0.6	0.7	0.4	0.5	0.9	1.5	1.7	1.4
キャッサバ	0.7	0.8	1.0	0.8	0.9	0.7	2.3	1.5	1.4	1.3
甘藷	1.2	0.8	0.8	0.8	0.6	0.6	0.6	0.5	0.5	0.6
緑豆	0.4	0.5	0.6	0.4	0.4	0.2	0.4	0.4	0.4	0.6
大豆	0.3	0.5	0.4	0.6	1.1	0.5	0.6	0.5	0.5	0.7
落花生	0.3	0.2	0.3	0.3	0.3	0.3	0.4	0.3	0.3	0.3
ゴマ	0.3	0.2	0.2	0.3	0.3	0.2	0.3	0.4	0.4	0.6
野菜	6.9	5.6	5.3	6.8	4.5	5.2	4.2	4.6	4.5	3.4
サトウキビ	0.5	0.7	0.6	0.5	0.5	0.3	0.4	0.4	0.4	0.5
黒胡椒	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2
タバコ	0.8	1.7	1.5	1.3	1.4	1.2	0.8	0.9	0.6	0.3
綿花	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ジュート	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ゴム	1.7	1.4	1.6	1.3	1.0	3.1	3.4	3.8	3.7	3.8
その他	4.3	3.6	3.4	3.6	4.5	4.8	5.4	6.5	6.4	6.8
家畜/家禽	18.7	16.3	17.1	17.2	16.1	16.2	15.4	14.2	15.5	16.1
漁業	29.7	27.8	29.1	30.1	29.9	29.4	28.0	30.1	31.4	32.7
林業	9.9	17.4	12.4	10.3	14.8	14.2	11.8	8.9	7.1	6.6

(注) r: revised estimates p: preliminary estimates

(出所) NIS, *Statistical Year Book 2003*, p.458.

2. 米と魚の供給と利用

表3は米(精米基準)の供給と利用を示したものである。1960年代のカンボジアは米の輸出国であった。しかし、1970年代、内戦の拡大とともに生産量が減り、輸出が途絶えたのみならず、輸入によって国民一人あたり供給量を維持するようになった。ポル・ポト時代に相当する1975年から1978年には、輸入さえも行われず、大量の在庫を取り崩している。それでも国民一人あたり供給量は前の時代に比して30kg以上も減少している。ポル・ポト政権の崩壊(1979年)と共に輸入が再開し、国民一人あたり供給量も少しずつ増加していく。しかし、生産量が1960年代の水準を回復し安定するまでに約10年かかっている。

また、国民一人あたり供給量は1990年代前半に1960年代の水準に達するが、以後は減少している。在庫が積み増されていることから、これが所得増による食事内容の変化によるものだという可能性も考えられる。しかし、1990年代半ば以降は、生産量の急増にもかかわらず輸出にほとんど回されていないことから、人口増に供給量が追いついていない可能性も払拭できない。

近年のカンボジアにおける米の供給と利用の一大特徴は、国内で生産された米が国内で消費されるという点である。1990年代半ば以降、輸入量は国内生産量の数パーセントにすぎない。比較的輸入の多い1995年でも3.7%、2002年でも5.1%である。また、輸出もほとんどなされていない。極めて自給自足的な構造にある。

表4は水産物の内訳とその供給と利用を示したものである。漁獲高のほとんどは淡水魚であり、多少は輸出に回されているものの、基本的には国内で食料として消費されている。漁業もまた極めて自給自足的な構造にある。

表3 米（精米基準）の供給と利用

年	国内供給量（1000トン）					国内利用（1000トン）					国民1人 あたり供 給量 kg/年
	生産	輸入	在庫	輸出	全体	飼料	種子	損失	食料	全体	
1961	1589	0	-185	249	1156	32	64	143	917	1156	164.8
1962	1360	0	-94	137	1129	27	54	122	925	1128	162.4
1963	1749	0	-109	394	1246	35	70	157	984	1246	168.6
1964	1841	0	-99	512	1230	37	74	166	954	1231	159.4
1965	1667	0	66	493	1240	33	67	150	990	1240	161.2
1966	1585	0	-160	173	1252	32	63	143	1014	1252	160.7
1967	1639	0	-165	209	1265	33	66	147	1019	1265	157.1
1968	2168	0	-582	202	1384	43	87	195	1059	1384	159.0
1969	1670	0	-253	94	1322	33	67	150	1072	1322	157.3
1970	2544	1	-839	185	1521	51	102	229	1140	1522	164.3
1971	1822	18	-392	32	1416	36	73	164	1143	1416	162.4
1972	1285	61	8	9	1345	26	51	116	1153	1346	162.1
1973	700	110	452	0	1262	14	28	63	1157	1262	161.7
1974	424	208	585	0	1217	8	17	38	1154	1217	161.4
1975	720	83	242	0	1046	14	29	65	938	1046	132.1
1976	734	0	262	0	996	15	29	66	886	996	126.8
1977	667	0	303	0	970	13	27	60	870	970	127.4
1978	667	0	334	0	1000	13	27	60	900	1000	134.9
1979	359	208	404	0	971	7	14	32	917	970	139.2
1980	1145	144	-222	0	1068	23	46	103	896	1068	135.5
1981	994	137	4	28	1108	20	40	89	959	1108	141.7
1982	1300	152	-225	0	1227	26	52	117	1032	1227	146.6
1983	1360	75	-105	0	1330	27	54	122	1126	1329	152.4
1984	840	104	381	1	1325	17	34	76	1199	1326	154.5
1985	1209	57	-38	4	1223	24	48	109	1042	1223	128.4
1986	1396	83	-71	0	1408	28	56	126	1199	1409	141.7
1987	1211	83	242	0	1536	24	48	109	1355	1536	154.3
1988	1667	109	-172	0	1605	33	67	150	1355	1605	149.0
1989	1782	40	-148	0	1674	36	71	160	1407	1674	149.5
1990	1667	28	61	0	1756	33	67	150	1506	1756	154.6
1991	1601	22	290	0	1912	32	64	144	1672	1912	165.7
1992	1481	87	334	0	1903	30	59	133	1680	1902	161.0
1993	1590	90	314	0	1994	32	64	143	1756	1995	162.7
1994	1483	55	513	0	2051	30	59	133	1829	2051	164.2
1995	2300	87	-71	0	2315	115	92	207	1901	2315	165.6
1996	2270	28	-166	6	2126	91	91	204	1740	2126	147.2
1997	2278	30	-138	4	2166	91	91	205	1779	2166	146.3
1998	2341	42	-74	1	2309	94	94	211	1911	2310	153.0
1999	2695	39	-317	2	2415	108	108	243	1957	2416	152.7
2000	2685	65	-163	1	2587	107	107	242	2131	2587	162.1
2001	2734	56	-433	2	2355	55	55	246	1999	2355	148.3
2002	2550	129	-287	4	2387	51	51	229	2056	2387	148.8

（出所）FAOSTAT, Food Balance Sheets 各年版より筆者作成。

表4 水産物の供給と利用（2002年）

	生産 (1000トン)	輸入 (1000トン)	輸出 (1000トン)	国内供給 (1000トン)	国民一人あ たり供給 (kg/年)
				食料	
総量	413	2	32	383	27.8
淡水魚	375	0	16	358	26.0
海水魚(遠洋)	0	2	0	2	0.1
その他 海水魚	27	0	13	13	1.0
甲殻類	9	0	2	7	0.5
頭足動物	1	0	0	1	0.1
その他	1	0	1	1	0.1

（出所）FAOSTAT/Food Balance Sheets より筆者作成。

3. 農産品貿易

表5は近年の農産品輸出の状況である。なおここで「農産品」とは国際標準貿易コード（HSコード）の第01類から第24類までに属する農産物とその加工品を指すものとする。表5はこれにカンボジアの伝統的輸出産品であるゴムを加えて作成した。

一見して明らかなのが、現在のカンボジアは農産品輸出国ではない、ということである。第40類「ゴム…」を加えても、農産品が輸出総額に占める割合はごくわずかであり、しかも減少傾向にある。1990年代前半の貿易状況が不明なため、若干の留保は必要であるが、自由貿易体制下においても、カンボジアの農産品輸出は大きく拡大はしていないと言えよう。

このように小規模なカンボジアの農産品輸出であるが、その主要産品は第40類「ゴム…」であり、ゴムを加えた農産品輸出額の6～7割を占めている。ゴムに次ぐのが第03類「魚…」である。米を含む第10類「穀物」は、年々の変動が大きいので、主要輸出品目のひとつとして数えるのは無理があろう。

表6は近年の農産品輸入の状況である。表5と比べてみると、2003年と2004年は全体としては貿易黒字を記録するに至ったが、農産品に限ると大幅な入超が続いていることがわかる。額の大きい第24類「たばこ…」の輸入を差し引いても入超である。すなわち、カンボジアは農産品の輸入国である。

ただし、その額は小さく輸入総額に対する比重も小さい。第10類「穀物」の輸入額が相対的に大きいのが、前節で指摘したように、米の輸入量は国内生産量の数%にすぎない。

4．国内価格と国際価格の相関

図1と図2は米のカンボジア国内生産者価格と国際価格（タイ）の相関を示したものである。図1は、タイの国際価格を年平均レートでカンボジア・リエルに換算したものと、カンボジア国内生産者価格の年々の動きを示した。この2系列のデータの相関係数は0.7234であり、強い正の相関は見られない。図2は、同様にリエル換算した国際価格に対する国内生産者価格の比率の推移を示したものである。1991年から1997年にかけては、国内生産者価格と国際価格の格差が縮小する傾向を看取することができる。しかし、そのトレンドは1999年に崩れた。

カンボジアでは米の販売・流通に関しても政府によるいかなる統制も行われていない。米の輸出入規制もなければ、高関税がかけられているわけでもない。このように自由な体制における図1と図2が示すような国際価格と国内価格の関係はどのように理解すればよいのだろうか。

第一に、国内価格の決定には国際価格よりも国内需給関係が非常に強く働いているのではないか、という仮説を立てることができる。第2節で確認したように、カンボジアにおける米の供給は輸入による部分が非常に小さく、大部分が国内生産による。米の利用もまた輸出にまわすのではなく国民の食料消費がほとんどである。このような自給自足的構造にあるために、国内価格が国際価格の動きと必ずしも連動しないのではないだろうか。

一方、国内生産者価格が国際価格の半分かそれ以下という水準にあるのは何故であろうか。著者の調査経験から次のふたつの要因が考えられる。ひとつは、食味の良い品種は自家消費される一方、早稲や浮稲などの低価格米が販売に回されているのではないか、という点である。ふたつには、貯蔵の問題や現金の必要性から農民が収穫直後の最安期にほとんどを売却しているのではないか、という点である。米の流通量、流通している品種、年間の価格変動と販売量などに関するマクロ・データがないため、本稿では検証することはできないが、今後の実証研究の課題となろう。

表5 農産品輸出

HS	1999			2000			2001		
	米ドル	総額に 対する%	農産品 輸出額 に対する%	米ドル	総額に 対する%	農産品 輸出額 に対する%	米ドル	総額に 対する%	農産品 輸出額 に対する%
01 動物(生きているものに限る。)	34,661.21	0.00	0.08	47,505.32	0.00	0.10	1,070,879.62	0.07	2.42
02 肉及び食用のくず肉	71.07	0.00	0.00	1,003.00	0.00	0.00		0.00	0.00
03 魚並びに甲殻類、軟体動物及びその他の水棲無脊椎動物	4,503,987.65	0.48	10.45	5,902,535.94	0.43	13.04	6,065,241.74	0.41	13.73
04 酪農品、鳥卵、天然はちみつ及び他の類に該当しない食用の動物性生産品	476,149.02	0.05	1.11	2,660,000.87	0.19	5.87	4,582,987.25	0.31	10.37
05 動物性生産品(他の類に該当するものを除く。)	23,728.83	0.00	0.06	21,529.17	0.00	0.05	12,565.06	0.00	0.03
06 生きている樹木その他の植物及びりん茎、根その他これらに類する物品並びに切花及び装飾用の葉	868.57	0.00	0.00	324.83	0.00	0.00	456.01	0.00	0.00
07 食用の野菜、根及び塊茎	21,006.30	0.00	0.05	76,913.85	0.01	0.17	291,512.71	0.02	0.66
08 食用の果実及びナット、かんきつ類の果皮並びにメロンの皮	51,506.94	0.01	0.12	114,651.64	0.01	0.25	39,926.81	0.00	0.09
09 コーヒー、茶、マテ及び香辛料	29.61	0.00	0.00	568.33	0.00	0.00	3,680.90	0.00	0.01
10 穀物	752,794.90	0.08	1.75	958,486.02	0.07	2.12	2,392,976.54	0.16	5.42
11 穀粉、加工穀物、麦芽、でん粉、イヌリン及び小麦グルテン		0.00	0.00	13,102.98	0.00	0.03	70,428.47	0.00	0.16
12 採油用の種及び果実、各種の種及び果実、工業用又は医薬用の植物並びにわら及び飼料用植物	1,126,910.25	0.12	2.62	634,875.26	0.05	1.40	460,738.89	0.03	1.04
13 ラック並びにガム、樹脂その他の植物性の液汁及びエキス		0.00	0.00	2,806.15	0.00	0.01	3,830.53	0.00	0.01
14 植物性の組物材料及び他の類に該当しない植物性生産品	114,819.95	0.01	0.27	29,085.39	0.00	0.06	180,666.27	0.01	0.41
15 動物性又は植物性の油脂及びその分解生産物、調製食用脂並びに動物性又は植物性のろう	2,212.01	0.00	0.01		0.00	0.00	79.30	0.00	0.00
16 肉、魚又は甲殻類、軟体動物若しくはその他の水棲無脊椎動物の調製品		0.00	0.00		0.00	0.00		0.00	0.00
17 糖類及び砂糖菓子	30,094.09	0.00	0.07		0.00	0.00	301.26	0.00	0.00
18 ココア及びその調製品		0.00	0.00		0.00	0.00		0.00	0.00
19 穀物、穀粉、でん粉又はミルクの調製品及びベーカリー製品	134,527.90	0.01	0.31	23,104.42	0.00	0.05	58,725.37	0.00	0.13
20 野菜、果実、ナットその他植物の部分の調製品	8,290.91	0.00	0.02	51,572.35	0.00	0.11		0.00	0.00
21 各種の調製食料品	10,390.32	0.00	0.02	1,077.23	0.00	0.00	181.53	0.00	0.00
22 飲料、アルコール及び食酢	41,829.88	0.00	0.10	321,908.39	0.02	0.71	37,512.42	0.00	0.08
23 食品工業において生ずる残留物及びくず並びに調製飼料	156,605.62	0.02	0.36	52,873.54	0.00	0.12	74,391.66	0.00	0.17
24 たばこ及び製造たばこ代用品	6,992,109.61	0.75	16.23	2,370,120.75	0.17	5.23	3,006,959.54	0.20	6.81
40 ゴム及びその製品	28,607,019.35	3.06	66.39	31,992,815.09	2.34	70.66	25,826,625.34	1.73	58.46
ゴムを含む農産品輸出の総額	43,089,613.99	4.62	100.00	45,276,860.52	3.31	100.00	44,180,667.22	2.95	100.00
輸出総額	933,540,411.41	100.00		1,368,710,011.01	100.00		1,496,030,582.44	100.00	

(出所) Ministry of Commerce [2004], 2004 Cambodia Exports Statistics: By Countries & Products.
より筆者作成(初鹿野直美氏の協力を得た)

2002			2003			2004		
米ドル	総額に対する %	農産品輸出額に対する %	米ドル	総額に対する %	農産品輸出額に対する %	米ドル	総額に対する %	農産品輸出額に対する %
1,127,448.62	0.08	2.50	1,247,523.49	0.06	2.69	1,154,595.95	0.04	1.62
	0.00	0.00	17.91	0.00	0.00	225,431.12	0.01	0.32
4,221,517.51	0.28	9.37	2,840,766.62	0.13	6.13	13,122,364.40	0.47	18.46
123,737.59	0.01	0.27	1,632.37	0.00	0.00		0.00	0.00
20,394.62	0.00	0.05	27,255.11	0.00	0.06		0.00	0.00
3,417.66	0.00	0.01	6,013.98	0.00	0.01		0.00	0.00
261,453.82	0.02	0.58	692,262.85	0.03	1.49	804,855.60	0.03	1.13
688,934.18	0.05	1.53	1,069,591.27	0.05	2.31	255,985.45	0.01	0.36
10,035.98	0.00	0.02	38,523.22	0.00	0.08	6,226.47	0.00	0.01
4,457,290.74	0.30	9.90	704,025.45	0.03	1.52	5,775,804.17	0.21	8.13
78,506.17	0.01	0.17	1,542,315.72	0.07	3.33	1,693,087.11	0.06	2.38
197,939.64	0.01	0.44	415,626.28	0.02	0.90	4,445,163.24	0.16	6.25
	0.00	0.00	5,417.53	0.00	0.01		0.00	0.00
5,096.65	0.00	0.01	34,982.31	0.00	0.08	21,024.38	0.00	0.03
5,663.20	0.00	0.01	438,876.27	0.02	0.95	895,449.47	0.03	1.26
196.38	0.00	0.00		0.00	0.00	847.28	0.00	0.00
12,094.21	0.00	0.03		0.00	0.00	4.40	0.00	0.00
	0.00	0.00		0.00	0.00		0.00	0.00
22,474.48	0.00	0.05		0.00	0.00	163,928.41	0.01	0.23
101,221.63	0.01	0.22	416,673.47	0.02	0.90	29,470.32	0.00	0.04
61,942.90	0.00	0.14	46.60	0.00	0.00	30,208.78	0.00	0.04
159,344.30	0.01	0.35	27,084.46	0.00	0.06	326,675.65	0.01	0.46
	0.00	0.00	400.97	0.00	0.00		0.00	0.00
3,736,400.01	0.25	8.30	2,070,988.42	0.10	4.47	3,839,400.24	0.14	5.40
29,741,420.96	2.00	66.04	34,730,575.07	1.64	74.99	38,284,247.38	1.37	53.86
45,036,531.25	3.03	100.00	46,310,599.37	2.19	100.00	71,074,769.82	2.54	100.00
1,487,683,583.95	100.00		2,114,389,997.12	100.00		2,794,245,355.49	100.00	

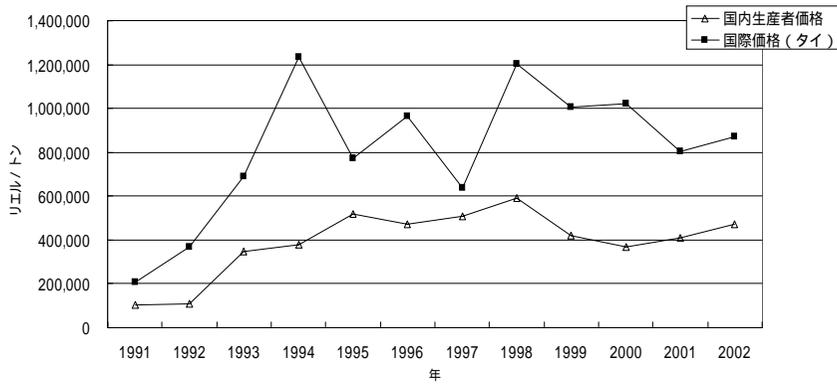
表6 農産物輸入

HS	1999			2000			2001		
	米ドル	総額に 対する%	農産品 輸入額 に対する%	米ドル	総額に 対する%	農産品 輸入額 に対する%	米ドル	総額に 対する%	農産品 輸入額 に対する%
01 動物(生きているものに限る。)	57,979.03	0.00	0.04	2,611,304.03	0.18	1.84	179,609.31	0.01	0.12
02 肉及び食用のくず肉	159,335.39	0.01	0.10	130,901.19	0.01	0.09	102,210.73	0.01	0.07
03 魚並びに甲殻類、軟体動物及びその他の水棲無脊椎動物	66,662.40	0.01	0.04	37,680.63	0.00	0.03	54,040.58	0.00	0.04
04 酪農品、鳥卵、天然はちみつ及び他の類に該当しない食用の動物性生産品	2,373,211.28	0.19	1.50	3,057,442.86	0.22	2.15	5,237,193.42	0.35	3.51
05 動物性生産品(他の類に該当するものを除く。)	7,839.09	0.00	0.00	15,610.88	0.00	0.01	71.51	0.00	0.00
06 生きている樹木その他の植物及びりん茎、根その他これらに類する物品並びに切花及び装飾用の葉	13,622.27	0.00	0.01	73,323.90	0.01	0.05	36,613.30	0.00	0.02
07 食用の野菜、根及び塊茎	1,188,322.09	0.10	0.75	688,776.90	0.05	0.48	408,078.95	0.03	0.27
08 食用の果実及びナット、かんきつ類の果皮並びにメロンの皮	3,506,320.51	0.29	2.22	3,268,138.58	0.23	2.30	2,768,251.41	0.18	1.85
09 コーヒー、茶、マテ及び香辛料	134,219.53	0.01	0.09	159,614.64	0.01	0.11	70,912.03	0.00	0.05
10 穀物	8,491,409.33	0.69	5.38	11,067,426.87	0.78	7.79	7,392,060.25	0.49	4.95
11 穀粉、加工穀物、麦芽、でん粉、イヌリン及び小麦グルテン	1,228,097.68	0.10	0.78	2,873,484.58	0.20	2.02	2,197,372.58	0.15	1.47
12 採油用の種及び果実、各種の種及び果実、工業用又は医薬用の植物並びにわら及び飼料用植物	161,954.66	0.01	0.10	764,706.14	0.05	0.54	516,441.53	0.03	0.35
13 ラック並びにガム、樹脂その他の植物性の液汁及びエキス	72,606.67	0.01	0.05	123,436.83	0.01	0.09	318,315.09	0.02	0.21
14 植物性の組物材料及び他の類に該当しない植物性生産品	7,480.23	0.00	0.00	9,098.60	0.00	0.01	6,542.19	0.00	0.00
15 動物性又は植物性の油脂及びその分解生産物、調製食用脂並びに動物性又は植物性のろう	7,662,492.19	0.62	4.85	6,656,329.20	0.47	4.68	7,404,089.19	0.49	4.96
16 肉、魚又は甲殻類、軟体動物若しくはその他の水棲無脊椎動物の調製品	3,364,760.67	0.27	2.13	2,676,236.69	0.19	1.88	428,081.08	0.03	0.29
17 糖類及び砂糖菓子	23,289,647.47	1.90	14.76	12,250,608.88	0.86	8.62	28,281,543.09	1.88	18.94
18 ココア及びその調製品	35,390.70	0.00	0.02	91,885.11	0.01	0.06	20,772.49	0.00	0.01
19 穀物、穀粉、でん粉又はミルクの調製品及びベーカリー製品	7,209,775.79	0.59	4.57	9,266,442.82	0.65	6.52	7,271,145.56	0.48	4.87
20 野菜、果実、ナットその他の植物の部分の調製品	1,000,462.01	0.08	0.63	1,001,093.56	0.07	0.70	768,522.39	0.05	0.51
21 各種の調製食料品	22,762,534.40	1.85	14.42	1,830,951.83	0.13	1.29	1,911,482.19	0.13	1.28
22 飲料、アルコール及び食酢	13,515,329.73	1.10	8.56	6,287,935.78	0.44	4.42	4,548,182.65	0.30	3.05
23 食品工業において生ずる残留物及びくず並びに調製飼料	405,624.27	0.03	0.26	758,426.47	0.05	0.53	655,069.96	0.04	0.44
24 たばこ及び製造たばこ代用品	61,114,228.76	4.98	38.72	76,445,579.76	5.39	53.78	78,745,450.01	5.24	52.74
農産品輸入の総額	157,829,306.15	12.86	100.00	142,146,436.73	10.03	100.00	149,322,051.49	9.93	100.00
輸入総額	1,227,523,902.08	100.00		1,417,767,798.91	100.00		1,503,643,655.80	100.00	

(出所) Ministry of Commerce [2004], 2003 Cambodia Imports Statistics: By Countries & Products.
より筆者作成(初鹿野直美氏の協力を得た)

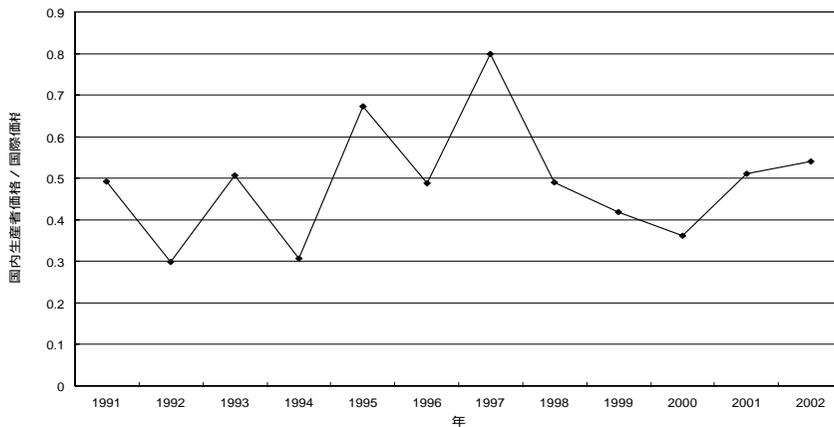
2002			2003			2004		
米ドル	総額に対する %	農産品輸入 額に対する %	米ドル	総額に対する %	農産品輸入 額に対する %	米ドル	総額に対する %	農産品輸入 額に対する %
313,226.44	0.02	0.20	116,779.23	0.01	0.09	88,731.49	0.00	0.05
63,442.40	0.00	0.04	44,973.14	0.00	0.03	33,720.23	0.00	0.02
31,927.26	0.00	0.02	31,459.33	0.00	0.02	9,735,700.36	0.47	6.01
4,326,085.05	0.26	2.82	5,770,010.19	0.33	4.24	3,283,104.89	0.16	2.03
140.56	0.00	0.00	656.80	0.00	0.00	23,979.78	0.00	0.01
666.33	0.00	0.00	37,184.97	0.00	0.03	6,713.13	0.00	0.00
494,182.18	0.03	0.32	537,632.99	0.03	0.40	634,866.09	0.03	0.39
2,365,219.16	0.14	1.54	2,388,612.48	0.13	1.76	2,658,204.80	0.13	1.64
2,073,901.32	0.12	1.35	86,271.41	0.00	0.06	97,687.06	0.00	0.06
12,870,581.00	0.77	8.39	11,057,871.41	0.62	8.13	11,650,758.67	0.57	7.19
2,004,853.46	0.12	1.31	3,612,381.90	0.20	2.66	5,804,125.93	0.28	3.58
369,302.12	0.02	0.24	389,011.33	0.02	0.29	267,032.71	0.01	0.16
133,999.93	0.01	0.09	150,430.42	0.01	0.11	248,208.49	0.01	0.15
1,935.29	0.00	0.00	22,716.84	0.00	0.02	10,421.19	0.00	0.01
7,440,852.75	0.45	4.85	9,103,540.09	0.51	6.70	8,029,475.41	0.39	4.96
562,353.77	0.03	0.37	3,039,508.42	0.17	2.24	2,118,301.65	0.10	1.31
28,181,149.80	1.69	18.37	5,509,455.26	0.31	4.05	7,537,930.33	0.37	4.65
33,859.55	0.00	0.02	7,376.38	0.00	0.01	13,549.11	0.00	0.01
7,249,934.71	0.44	4.73	8,751,726.52	0.49	6.44	10,265,813.48	0.50	6.34
794,202.26	0.05	0.52	816,111.28	0.05	0.60	947,565.60	0.05	0.58
2,317,904.54	0.14	1.51	3,455,812.27	0.20	2.54	3,485,470.30	0.17	2.15
3,478,869.00	0.21	2.27	3,670,394.00	0.21	2.70	3,253,386.12	0.16	2.01
1,974,374.58	0.12	1.29	3,715,142.27	0.21	2.73	6,564,892.34	0.32	4.05
76,350,989.31	4.59	49.76	73,626,114.70	4.16	54.16	85,226,063.56	4.14	52.61
153,433,952.77	9.22	100.00	135,941,173.63	7.67	100.00	161,985,702.72	7.86	100.00
1,664,245,246.58	100.00		1,771,480,145.81	100.00		2,060,287,676.98	100.00	

図1 国内・国際米価の動き



(出所) 国内生産者価格：FAOSTAT
 国際価格(タイ)：IMF, *International Financial Statistics*
 年平均為替レート：ADB, *Key Indicators of Developing Asian and Pacific Countries*.
 以上より筆者作成。

図2 国内生産者価格 / 国際価格比 (リアル建て)



(出所) 図1に同じ。

5. 工業化の影響

1990年代にカンボジア経済に生じた最も顕著な変化は工業化である。すでに指摘したように、1990年代初頭から2000年代初頭にかけて、カンボジアのGDP構成は、「農林水産業」が縮小した一方で「工業」が大幅に拡大した。表7に示されているように、この「工業」の拡大はほぼ全面的に「衣類」の発展のおかげである。

表7 工業部門の粗付加価値の内訳（2000年価格）

単位：百万リエル

	1993 _r	1994 _r	1995 _r	1996 _r	1997 _r	1998 _r	1999 _r	2000 _r	2001 _r	2002 _p
工業部門	1,102,527	1,291,917	1,591,839	1,675,027	2,003,208	1,953,852	2,331,732	3,047,161	3,441,044	4,051,350
鉱業	17,808	23,050	27,658	23,874	23,439	20,237	26,869	33,544	38,047	45,174
製造業	684,748	779,155	968,376	1,102,370	1,443,390	1,473,822	1,728,579	2,238,690	2,556,770	2,943,709
食品	274,961	272,941	337,000	338,452	350,503	386,480	407,386	386,537	401,972	387,048
飲料	56,564	49,094	46,541	42,196	38,469	36,494	35,009	31,249	31,528	31,785
タバコ	12,116	12,587	11,821	13,279	14,161	14,636	15,792	15,594	19,384	25,194
繊維	28,104	35,632	40,655	46,065	56,549	58,373	62,725	79,695	75,839	95,309
衣類	30,668	38,475	94,302	186,488	385,886	514,739	708,236	1,180,888	1,473,199	1,776,005
履物	4,296	5,252	5,843	6,192	10,839	16,003	21,962	35,188	41,050	53,434
木材、製紙 および出版物	95,685	167,888	218,321	229,815	333,417	148,570	124,677	109,883	74,805	84,764
ゴム	22,542	20,632	24,660	29,949	31,053	54,790	62,903	69,165	69,697	69,191
非金属工	31,213	35,044	39,260	37,933	39,329	37,884	56,871	85,989	111,163	143,065
卑金属、 金属製品	13,881	15,656	18,966	17,731	17,749	15,672	18,115	24,325	31,446	40,471
その他製造業	114,720	125,953	131,006	154,270	165,436	190,179	214,903	220,179	226,686	237,443
電気、ガス、水道	25,598	27,802	37,875	38,194	38,708	40,149	41,660	43,331	44,415	45,526
建設	374,372	461,909	557,930	510,590	497,671	419,645	534,624	731,596	801,812	1,016,939

(注) r: revised estimates p: preliminary estimates

(出所) NIS [2003], *Statistical Year Book 2003.*, p.461.

既述のように、1996年に米国との通商関係が通常化したのを契機に、台湾、中国、香港などから多くの縫製業者が対米輸出を目論んでカンボジアに流入し、カンボジアの縫製業は一気に拡大した。2000年代に入る頃にはカンボジアの輸出向け縫製工場は約200社に増え、約20万人を雇用するまでになった。

縫製業の発展は農村部の就業構造に大きな変化をもたらした。表8に示されているように、2000年代になってもプノンペン特別市の男性を除き、雇用関係にある就労者は少ない。「自営」業者とそこで無償で働く「家族労働者」がカンボジアにおける就労の支配的な形態である。このような状況にあって1990年代前半以降、農村部の女性で「従業員」として働く割合が10%近く増加した。彼女らのほとんどは表9に明らかに示されているように、縫製業従事者である。

表8 就労形態

< 1993/94年 >

地域	性別	就労者総数 (千人)	形態(%)				
			雇用主	自営	従業員	家族労働者	その他
プノンペン特別市	男	134.0	0.9	43.8	52.9	2.4	n.a.
	女	106.3	0.2	67.8	22.0	10.1	n.a.
その他州都	男	149.8	0.4	56.7	33.5	9.3	n.a.
	女	140.4	0.4	58.6	10.2	30.7	n.a.
農村部	男	1612.8	0.6	71.9	12.0	15.4	n.a.
	女	1800.1	0.2	50.9	2.8	46.2	n.a.

< 2001年11月 >

地域	性別	就労者総数 (千人)	形態(%)				
			雇用主	自営	従業員	家族労働者	その他
プノンペン特別市	男	186.1	0.4	40.1	52.2	7.1	0.3
	女	176.5	0.1	53.1	30.3	16.5	0.0
その他州都	男	275.1	0.7	44.1	31.6	22.9	0.7
	女	276.5	0.2	42.8	17.1	39.5	0.4
農村部	男	2,556.0	0.1	50.3	15.3	34.3	0.0
	女	2,773.2	0.1	30.6	12.2	57.0	0.1

(注)用語の定義は以下のとおり(NIS[2002:5-6])。

雇用主：経済組織を経営しているか、もしくは専門職や商業を独立して営んでいて、かつ1人以上の従業員を雇っている人々。

自営：企業を営んでいるか、もしくは専門職や商業を独立して営んでいて、かつ従業員を1人も雇っていない人々。

従業員：公的または民間セクターの雇用主のために働いていて、賃金、給与、手数料、チップ、出来高払い、もしくは現物で、報酬を受け取っている人々。従業員には、有給の家族を含む。

家族労働者：同一世帯内の親族によって経営されている経済組織における無報酬の人々。

その他：就業形態が不明、または不適切な報告がなされた就業者。

(出所) NIS[1995], *Report on the Socio-Economic Survey of Cambodia 1993/94 (All Rounds)*, p.55, および NIS[2001], *Labor Force Survey of Cambodia November 2001.*, pp.25-33 より筆者作成。

表9 労働力人口と賃雇用者（2001年11月）

単位：人

		10歳以上労働力人口		
			賃雇用者	
				縫製業従事者
全国	男	2,985,843	552,432	30,178
	女	3,189,985	421,437	160,042
	計	6,175,827	973,869	190,220
農村部	男	2,609,758	405,202	25,804
	女	2,831,632	344,437	144,330
	計	5,441,390	749,639	170,135

(出所) NIS [2003], *Statistical Year Book 2003*, pp.43-47.

いくつかの調査事例によれば、彼女達のほとんどは10代後半から20代前半の未婚者である(天川[2004])。工場周辺に下宿し、故郷との距離にもよるが、年に数回ほど帰郷する(小林[2004])。また、彼女達による仕送りは農村世帯の1ヵ月の支出を賄うに足りるほどであり(小林[2004])。すでに農村部では高収入層ほど若年女性労働力、すなわち縫製工場への出稼ぎ者を多く含むという傾向を生み出しているという(天川[2004])。

この現象を世帯の兼業化と労働力の離農という側面から少し検討しておきたい。現在のカンボジア経済では縫製業以外にめぼしい製造業が見当たらない。しかも、表9に示されているように、縫製業が創出する労働力需要は女性に偏っている。若年女子の離農が、今後の農業の担い手のあり方にどのような影響を与えるのかについては注視する必要がある。

6. 国際社会への復帰と米作・漁業

1979年にポル・ポト政権崩壊後の国土を引き継いだ人民革命党政権は、共同耕作制度の導入とその解体というプロセスを通じて、農村居住世帯すべてに対して農地を分配し、彼らを自作農とした。当時のカンボジア農村では、自らの耕作によって自らの食料を調達することが生計を維持するほとんど唯一の手段であった。そしてカンボジア経済は人民革命党政権という孤立状態におかれた国家のもとで復興の道を歩み、1990年代を迎えた。

1990年代、国民経済としては、対外開放が急速に進展し、自由貿易体制下にはいった。

しかし、カンボジアの第1次産業の中核をなす米作と漁業はなお非常に自給自足的な構造にある。すなわち、カンボジア経済が世界的な経済自由化に直面しているにもかかわらず、少なくともマクロ・データから米作と漁業の生産・消費構造への直接的な影響は読み取れない。一方、第2次産業は経済自由化と対外開放のおかげで外資主導による縫製業の発展を得て、大幅に拡大した。この工業化の進展は農村部における就業構造に大きな変化をもたらした。現時点では就業構造の変化が生産構造に明らかな変化を及ぼすにはいたっていない。しかし早晩、何らかの影響が表出してくることは間違いないだろう。

〔参考文献〕

天川直子 [2004] 「カンボジア農村の収入と就労——コンポンスプー州の雨季米作村の事例——」(天川直子編『カンボジア新時代』研究双書 No.539、日本貿易振興機構アジア経済研究所) pp.327-377。

小林知 [2004] 「カンボジア・トンレサープ湖東岸地域農村における生業活動と生計の現状——コンポントム州コンポンスヴァーイ郡サンコー区の事例——」(天川直子編『カンボジア新時代』研究双書 No.539、日本貿易振興機構アジア経済研究所) pp.275-325。

Ministry of Commerce [2004a] *2004 Cambodia Exports Statistics: By Countries & Products*.

Ministry of Commerce [2004b] *2004 Cambodia Imports Statistics: By Countries & Products*.

National Institute of Statistics (NIS) [1995] *Report on the Socio-Economic Survey of Cambodia 1993/94 (All Rounds)*, Ministry of Planning.

———— [2002] *Labor Force Survey of Cambodia November 2001*, LFS Cambodia No.2, Ministry of Planning.

———— [2003] *Statistical Year Book 2003*, Ministry of Planning.